

令和5年度事業分(R4.10～R5.9)地域間幹線系統事業評価(長久手市)

資料1-1

補助対象事業者等		事業概要		前回の事業評価結果反映状況	事業実施の適切性	目標効果達成状況		輸送量(人)				収支率(%)		複数市町村をまたぐ系統/幹線系統としての役割	今後の課題	
運営主体	運行事業者	系統名	運行区間			A達成 B未達成 C目標の半数に満たず	(人)	R5計画	R5実績	1日あたり	平均乗車密度	運行回数	R4実績			R5実績
日進市	名鉄バス(株)	ぐるりんばす五色園線	市役所-長久手古戦場駅-市役所	路線の利便性向上を目標に、公共交通会議内に設置する検討部会や地域での意見交換会等を通じ、路線改正案について検討を実施。改正案は令和6年度中の改正を予定。 市HPや各SNS等による市出身の有名人による車内音声案内事業の周知等、市内外に向けて公共交通利用促進策を展開。	A	計画どおり運行されている。	A	目標57,625 結果58,852 目標利用者数は達成したが、高齢者が主な利用者層のため、新型コロナウイルスの5類感染症への移行後についても移動需要が回復せず、コロナ前と比較し利用者が低迷している。	19.8	18.8	1.9	9.9	14.10	14.48	市町村をまたぐ利用者は月平均3,364人で全体の68.6%を占める。長久手市をはじめ、名古屋市や豊田市への通勤・通学・通院・買い物の足として幅広く利用されている。	市内巡回バスが幹線交通、福祉交通の両方の役割を担っており、うまく機能していない部分がある。市内の移動資源を総動員し、日進市のあるべき交通の姿を記した新しい公共交通計画に基づき、それぞれの交通の役割分担を実施し、幹線機能の強化、幹線に接続する交通網・乗継拠点の整備、ラストワンマイル対策を実施する必要がある。
名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	日進中央線	赤池駅～日進市役所～長久手古戦場駅	HP、CentXなどのスマートフォンでの時刻検索システム、パスロケーションシステムの提供や、コンテンツプロバイダへのデータ提供を行い、利用促進を図った。	A	計画どおり運行されている。	A	目標116,102 結果130,695 利用者数は130,695人(前年比103%)となり、目標利用者数に達した。新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、徐々に通勤通学での利用者が回復してきたと考えられる。しかしながら、今後、リモートワーク等による生活様式の変化の影響は一定数受け手が想定される。	57	66.0	4.4	15.0	56.93	59.39	市町村をまたぐ利用者は月平均2,970人で全体の26.0%を占める。現金、ICSFの定期外利用が84.8%と多い。リモネ駅及び大規模商業施設が近接する長久手古戦場駅では1日当たり約89人の利用がある。	新型コロナウイルスの影響後の新たな社会生活様式において、路線バスに求められるサービスを調査・分析する必要がある。また、運転手不足による現状ダイヤ便数の確保ができるかどうか。現状のサービスを維持しつつ、利便性向上に努めるとともに、利用者増加のため、新たな利用者発掘を目的とした利用促進策を実施する必要がある。
名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	愛知医科大学病院線	長久手古戦場駅～愛知医科大学病院～尾張旭向ヶ丘	HP、CentXなどのスマートフォンでの時刻検索システム、パスロケーションシステムの提供や、コンテンツプロバイダへのデータ提供を行い、利用促進を図った。	A	台風19号の影響により、1本の運休となったが、それ以外は所定の確保計画どおりの運行が実施されている。	A	目標46,149 結果56,756 利用者数は56,756人(前年比123%)となり、目標利用者数に達した。新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、徐々に通勤通学での利用者が回復してきたと考えられる。しかしながら、今後、リモートワーク等による生活様式の変化の影響は一定数受け手が想定される。	16.2	20.8	1.8	11.6	22.96	28.31	市町村をまたぐ利用者は月平均3,240人で全体の53.5%を占める。現金、ICSFの定期外利用が79.6%であり、増加傾向である。また、市外から愛知医科大学病院への利用が多い。	新型コロナウイルスの影響後の新たな社会生活様式において、路線バスに求められるサービスを調査・分析する必要がある。また、運転手不足による現状ダイヤ便数の確保ができるかどうか。現状のサービスを維持しつつ、利便性向上に努めるとともに、利用者増加のため、新たな利用者発掘を目的とした利用促進策を実施する必要がある。
名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	本地ヶ原線	藤が丘～愛知医科大学病院～瀬戸駅前	HP、CentXなどのスマートフォンでの時刻検索システム、パスロケーションシステムの提供や、コンテンツプロバイダへのデータ提供を行い、利用促進を図った。	A	計画どおり運行が実施されている。	A	目標78,678 結果117,871 利用者数は117,871人(前年比150%)となり、目標利用者数に達した。新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、徐々に通勤通学での利用者が回復してきたと考えられる。しかしながら、今後、リモートワーク等による生活様式の変化の影響は一定数受け手が想定される。	25.9	41.3	5.1	8.1	58.46	69.26	市町村をまたぐ利用者は月平均9,720人で全体の87.6%を占める。現金、ICSFの定期外利用が79.6%となっている。藤が丘駅から愛知医科大学病院への通院利用が大半である。	新型コロナウイルスの影響後の新たな社会生活様式において、路線バスに求められるサービスを調査・分析する必要がある。また、運転手不足による現状ダイヤ便数の確保ができるかどうか。現状のサービスを維持しつつ、利便性向上に努めるとともに、利用者増加のため、新たな利用者発掘を目的とした利用促進策を実施する必要がある。
尾張旭市	豊栄交通(株)	尾張旭市営バス(東ルート)線	市役所～愛知医科大学病院～市役所	利用者懇談会及び利用者アンケートを実施し、ニーズの把握に努めた。ルートマップを転入者用パンフレットに同封し、市内の商業施設や病院に配布。また、GTFSデータを更新し、停留所の移動等に対応。	A	計画どおり運行されている。	A	目標103,000 結果109,274 利用者数は103,000人(達成率106.1%)となり、目標利用者数に達した。ウィズコロナの生活様式の定着、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に移行したことなどにより、外出機会が増加した。	64.9	69.4	4.6	15.1	14.80	16.80	市町村をまたぐ利用者は月平均1,396人で全体の7.7%を占める。広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。	買い物や通院などによる午前の便に利用が集中している。当市のバスは着座が原則のため、少ないながらも乗りこぼしが発生していることから、利用者ニーズに即したダイヤを検討する必要がある。
尾張旭市	豊栄交通(株)	尾張旭市営バス(西ルート)	市役所～愛知医科大学病院～市役所	利用者懇談会及び利用者アンケートを実施し、ニーズの把握に努めた。ルートマップを転入者用パンフレットに同封し、市内の商業施設や病院に配布。また、GTFSデータを更新し、停留所の移動等に対応。	A	計画どおり運行されている。	A	目標115,000 結果118,916 利用者数は118,916人(達成率103.4%)となり、目標利用者数に達した。ウィズコロナの生活様式の定着、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に移行したことなどにより、外出機会が増加した。	72.4	89.0	5.9	15.1	16.60	19.40	市町村をまたぐ利用者は月平均2,333人で全体の11.9%を占める。広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。	買い物や通院などによる午前の便に利用が集中している。当市のバスは着座が原則のため、少ないながらも乗りこぼしが発生していることから、利用者ニーズに即したダイヤを検討する必要がある。

(裏面に続く)

補助対象事業者等		事業概要		前回の事業評価結果反映状況	事業実施の適切性	目標効果達成状況						複数市町村をまたぐ系統/幹線系統としての役割	事業の今後の改善点	
運営主体	運行事業者	系統名	運行区間			A達成 B未達成 C目標の半数に満たず (人)	輸送量(人)				収支率(%)			
						R5計画	R5実績	平均乗車密度	運行回数	R4実績	R5実績			
豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	新城名古屋藤が丘線	新城市民病院西～長久手古戦場駅	田口新城線の利用促進策として「デジタルスタンプラリー」を実施し、名古屋圏からの集客を図るため、藤が丘線とのモデルコースを造成してPRした。	A 計画どおり運行されている。	A	18.3	20	6.9	2.9	36.00	39.60	市町村をまたぐ利用者は月平均18,765人で全体100%である。高速乗合バスとして新城市と名古屋市及び長久手市を結ぶ路線で、すべての利用者が市を跨ぐ利用しており広域的な路線の役割を果たしている。利用者は、新城市から名古屋への通勤・通学や名古屋圏から新城市への観光(特に鳳来寺山の紅葉シーズン)で利用されている。	奥三河地域住民への周知を充実させ、利用促進を図る必要がある。